

承明門院小宰相全歌集成・補遺と各句索引

山崎 桂子

本稿は、鎌倉中期の女流歌人である承明門院小宰相の和歌作品の集成を行った前稿（志學館大学文学部「研究紀要」第二十二卷第二号、二〇〇一年一月）の補遺と、それをもとに作成した各句索引である。

〔キーワード〕 承明門院小宰相、土御門院小宰相、家隆女、和歌集成、各句索引

一、作品補遺

前稿の集成に漏れていた小宰相の歌四首は次の通りである。これらを前稿の和歌集成の末尾に加えて、272～275の歌番号を付す。

補遺 1 檜葉和歌集（1首）

272 わかのうらにたちわかれぬるあしたづのあとにかひなきねをのみぞなく（五九二）

補遺 2 閑月和歌集（1首）

273 みやまふくあらしやゆきをおくるらん野なるくさ木ぞふゆごもりゆく（三二五）

補遺3 廿八品並九品詩歌（2首）

- 274 たまゆゑにいでぬと見えてわたつうみのなみのみなみの月ぞさやけき（二六）
275 なのみきくよもぎがしまもたづね見ししなぬくすりののりにあひなば（四八）

右の補遺歌に關して若干の解説を加えておきたい。

補遺1は『檜葉和歌集』巻第七神祇付賀祝に次のような形で入集している。

二位家隆卿の思ひに侍りけるころ、小宰相につかはしける

無品内親王家侍従

わかのうらにひとりやなみのむせぶらむこをおもふつるのたちわかれつつ（五九二）

かへし

承明門院小宰相

わかのうらにたちわかれぬるあしたづのあとにかひなきねをのみぞなく（五九二）

現存する小宰相の和歌は定数歌や歌合歌という晴れの歌で、『増鏡』に載せる「憂しと見し」の一首のみが哀傷の独詠歌という状況であったが、ここに褻の歌をもう一首加えることとなる。しかも贈答歌であり、貴重である（この贈答歌の存在は後掲の冷泉家時雨亭叢書第二十九卷『中世私家集五』の井上宗雄氏の解題によって知った）。

詞書からわかるように、父である従二位家隆が亡くなり、その悲しみに沈んでいる小宰相のもとに無品内親王家侍従から「わかのうらに」の歌が贈られ、小宰相が返歌したものである。八十歳の家隆が難波天王寺に下り、七首の歌を詠じ、やがて端座合掌して往生したのは嘉禎三年（一二三三）四月九日のことであった（『古今著聞集』巻第十三）。従つて、この贈答は同日以降遠からぬ頃のものとの年次確定が可能である。小宰相は三十九歳位であったと推定される。

「子を思う鶴（父）と死に別れて、あなたは和歌の浦で波が噎ぶように泣いていらっしやることでしょう」という弔いの贈歌に対して、「和歌の浦で親と死に別れた葦田鶴は親の足跡を見て、今となつては甲斐もなく泣くばかりです」と答えたものである。「和歌の浦」が詠み込まれているのは、重代の人ではなかったが定家と並ぶ歌人であつた家隆とその娘小宰相を優れた歌詠みの親子と認識した発想によるものである。

歌を贈つてきた無品内親王家侍従については、樋口芳麻呂氏の『檜葉和歌集と研究』（未刊国文資料刊行会、昭和三十六年一二月）に詳しい。彼女の歌は『檜葉和歌集』に他に二首入集しており（三一、一九五）、その詞書と『文机談』の記述とを照合させると、無品内親王は後高倉院皇女能子内親王で、そこへ侍従の局という名で仕えていた女性であらうとされている。しかも『檜葉和歌集』の撰者素俊の女がその人なのである。小宰相と侍従の局がいかなる縁で結ばれていたかは不明であるが、歌の贈答をし合う親密な仲であつたことは想定できよう。南都関係の歌人の歌を集めた本集に、思いがけずも小宰相の歌一首が残されていたのは、偏に贈答の相手侍従の局が撰者素俊の娘であつたことによるものであらう。また、この贈答歌は、本集の抜に記す撰集年次「嘉禎三年六月五日」に最も近い撰定直前の作でもある。以上のように資料性の高いこの贈答の小宰相歌は、前稿の全歌集成では時期的には「c遠島歌合」の後に入れるべき作ということになるが、歌番号は前稿の末尾に続けて272を付しておきたい。

補遺2は『閑月和歌集』巻第六冬歌に入集するものである。

梶井入道親王^{尊家}の五首歌に、冬野

土御門院小宰相

みやまふくあらしやゆきをおくるらん野なるくさ木ぞふゆごもりゆく（三三五）

『閑月和歌集』は現存本では五四九首であるが、落丁・錯簡があり、全体の姿を窺うことはできない。撰者未詳である

が、久保田淳氏は「あるいは仁和寺関係の僧侶歌人、藤原為家の息源承かその周辺の人物か」（『和歌大辞典』）と推定され、成立時期についても弘安四年（一二七八）から同五年末までの成立かとされている。この中に右の一首を拾うことができる。

詞書にいう梶井宮入道親王は、『梶井門跡略譜』（大日本史料所収）他によると後鳥羽院の第七皇子尊快。母は脩明門院。承圓僧正に入室受法、承久二年（一二二〇）十七歳で灌頂。これは勅會灌頂の初例であったが、翌年十八歳で天台座主となり、これも二十歳未満の座主の初例となった。しかし、宣命を受けずして同年七月承久の変により座主を辞している。寛元四年（一二四六）四月二日遷化、四十三歳であった。尊快入道親王は『続後撰集』以下の勅撰集に四首入集の歌人であるから、詞書のように歌人達に歌を召したり、和歌会などを開いたであろうことは十分考えられる。

同じく『閑月和歌集』卷六冬歌に、

梶井入道親王^尊家の五首歌に、冬山

前大納言資季

かみなづきまさきのかづらちりぬれどとやまのくもはなほしづれつつ（三〇三）

の歌があり、小宰相歌と同一の折と思われる資季詠をも拾うことができる。資季は二条定能の孫、資家の子で左中将正二位大納言。文永五年（一二六八）十月五日出家、正應二年（一二八九）正月二十二日に八十三歳で薨じている。これらから、尊快入道親王家で「冬山」「冬野」等の歌題による私的な五首歌会が開かれ、小宰相、資季等が参加していたものと思われるが、残り三題や他の参加者、小宰相参加の理由など今不明である。尊快入道親王の勅撰集・私撰集入集歌にもこの五首歌からと思われるものはない。

従って、「梶井入道親王家の五首歌会」は入道親王没の寛元四年（一二四六）四月二日以前に催されたということしかわからない。全歌集成では「d宝治院歌合」が宝治元年（一二四七）であるから、その前年以前の詠となるが、他と

の先後については不明である。歌番号は前稿の末尾補遺1に続けて273を付しておきたい。

補遺3は『廿八品並九品詩歌』の中に収める二首である。

提婆品

たまゆゑにいでぬと見えてわたつうみのなみのみなみの月ぞさやけき（二二六）

薬王品

なのみきくよもぎがしまたづね見ししなぬくすりののりにあひなば（四八）

『廿八品並九品詩歌』は、建長五年（一二五三）定家十三回忌に際し為家が歌人達に勧進した追善詩歌で、『法華經二十八品』と『無量義經』『普賢經』、『上品上生』から『下品下生』の九品の合計三十九題のもと漢詩と和歌各一首ずつを詠んだものである。漢詩作者十二人、和歌作者十三人からなり、一人二首から五首を詠んでいるが、女流では小宰相がただ一人の作者である。家隆の女として詠を乞われたものであろう。同じく息隆祐も出詠している（これは隆祐の最終事蹟となる和歌である）。

ちなみに漢詩は、提婆品が「千年水冷経行日 五障雲晴仏力風」（在章朝臣）、薬王品が「遂期金色成身仏 暫類白頭折臂翁」（入道大納言寂空）である。定家の忌日は八月二十日であるから、建長五年のこの日までに勧進されたことは確かである。小宰相はこの年五十五歳位と推定される。詠歌年次が確定され、しかも釈教歌という点で貴重である。全歌集成では「一秋風集」と「m雲葉集」の間に入ることになる。歌番号は補遺2に続けて274・275を付しておきたい。

二、他出状況補遺

前稿全歌集成で集成歌の下段に記した他出状況とその異同について補うべきものがあったので、次に掲げる。このう

ち『新時代不同歌合』（基家撰、文永年間後半の成立）以外は、前稿で掲出不要と判断したものであるが、『新編国歌大観』で検索し得るものについてはすべて掲出することにした。

算用数字が集成歌の歌番号、続く書名と漢数字（新編国歌大観番号）が他出状況。異同のあるものはそれも記した。

6	新時代不同歌合二〇八	129	新時代不同歌合二一〇・なりせば
8	題林愚抄三六九四		題林愚抄九五三八
10	歌枕名寄一一七七・色しみえねば	149	題林愚抄三三五八
11	女房三六人歌合八三	151	題林愚抄三六一七
20	題林愚抄六三〇九・とし月の	158	女房三六人歌合八四
41	題林愚抄一四二五・名もうし	159	女房三六人歌合八二
42	題林愚抄一四九三・ときはかきはの松の	247	新時代不同歌合二〇九
84	題林愚抄七三二二	248	題林愚抄七六〇八・しぐるめり
103	歌枕名寄九一九八・心よるとも	151	歌枕名寄六六二六
122	題林愚抄一〇三五四、歌枕名寄四五五九		

三、各句索引

前稿「承明門院小宰相全歌集成」発表後、冷泉家時雨亭叢書第二十九卷『中世私家集五』（平成一三年四月、朝日新聞社）が刊行された。この中には、鎌倉中期の書写にかかる新出資料『土御門院女房』（仮題）が収められている。解

題で井上宗雄氏が述べられているように、本書は書名がなく、江戸中期頃補われた紙表紙に「此集は土御門院につかへまいらせし女房のかける物とみゆもし家隆卿の女小宰相などにてやあるらん」とあるという。井上氏は「この『土御門院女房』が、土御門院に仕えていた女房のものであることは、内容を一見することによって明らかである」とされ、大まかな内容を紹介され、作者の特定も試みられている。最も有力な作者はやはり後補の表紙に記す小宰相である。が、井上氏も「きめてには欠くが」とされた上で「非傷の情の溢れている文・歌からして、作者が小宰相である可能性は皆無ではないであろう」と結論づけられている状況である。

私も先年、冷泉家の至宝展でこの資料を一見して以来、小宰相の家集のものではないかと冷泉家時雨亭叢書の刊行を心待ちにしていた。今後、井上氏の解題に導かれながら『土御門院女房』を詳細に検討して、作者小宰相の可能性を探ってみたいと考えている。そのための小宰相側の基礎資料として、まず彼女の全歌の各句索引を作成しておきたいと思う。

凡例

一 前稿で集成した二七一一首に今回補った四首を加えて1～275の歌番号を付す。

二 二七五首の各句を歴史的仮名遣いによる仮名書きに統一し、五十音順に排列した。但し、清濁は分かつ。その場合『新編国歌大観』の表記によりつつ、漢字を仮名にした部分については私意による。

三 『新編国歌大観』本文では底本のままととなっている助動詞「ん」「けん」「らん」等は「む」「けむ」「らむ」等に統一した。

四 「むめ」「むま」「かむ（ん）なづき」は、それぞれ「うめ」「うま」「かみなづき」に統一した。

五 他出資料と異同があるものについては、異同の本文でも検索できるように掲出している。但し、明らかな誤写は除く。

あ
あかしがた
あかしかね
あかつきさむき
あかでちる
あかでやみにし
あきかぜぞふく
あきかぜに
あきかぜの
あきかぜのふく
あききぬと
あきごとに
あきぞしらるる
あきなたのめそ
あきにしられぬ
あきのいろにや
あきのかたみと
あきのけしきぞ
あきのたの
あきのちぎりに
あきのつき
あきのなかばの
あきのはつしも
あきのひかずに
あきのものとは

2

82

201 147 71 152 65 153 117 60 202 53 91 177 17 56 54 130 8 124 200 249 139 124 61 152

あきのやまざと
あきのやまもと
あきのゆふぐれ
あきのよの
あきのよは
あきのよを
あきのわかれを
あきはいろそふ
あきはかぎりに
あきはぎのはな
あきもなほ
あくるほどなき
あけぬまを
あけぼののそら
あさがすみ
あさがほのはな
あさがにはぞ
あさぐもの
あさたつのべの
あさつゆも
あさでのわかな
あさなあさな
あさひのやまの
あしがらのやま
あしたづの

27

149

142

272 68 123 263 252 224 175 210 77 172 4 54 172 141 178 149 162 161 73 61 63 157 261 150 148

あしのはに
あしのはも
あすかがは
あすしらぬ
あすはながめむ
あだしごろと
あだなりと
あだにむすびし
あたらよの
あぢかまの
あづさゆみ
あとなえて
あとかひなき
あとのこらむ
あとのしらなみ
あともはかなき
あはぢしま
あはでのもりの
あはれぞつきに
あはれとも
あはれとや
あはれにも
あはれやそはむ
あはれをみする
あひみるはるは

139 159 246 220 82 213 244 259 109 112 268 155 272 26 103 263 195 21 270 190 202 138 126 219 111

あふことかたき
あふさかのやま
あふせありやと
あふせもしらで
あふたのみある
あふひとからと
あまたにつつむ
あまたへにけり
あまのがは
あまのかはなみ
あまもかづきぬ
あまをぶね
あめはふりきぬ
あめふりくらす
あやしとききし
あらいそに
あらしやゆきを
あらすきかへす
あらねども
あらはれにけり
あらむものとは
ありあけの
ありしわかれば
あるじとて
あれまざる

62

165

134 250 1 104 158 269 83 180 273 12 58 32 117 59 99 262 257 139 144 61 153 145 90 163 89

あれまざるなり
あをやぎを
い
いかかせむ
いかでまた
いかなれば
いかにして
いかにせむ
いかにちぎりて
いかにちぎれば
いかにとむべき
いかにねしよと
いかにまたれて
いかばかり
いくかへり
いくかもあらぬ
いくたのものの
いくちよきみに
いくへもつもの
いくみはあれど
いけにすむ
いけのやなぎや
いこまのやまは
いそぐなるらむ

104

22

145

190

36 85 254 79 97 78 122 178 147 108 48 204 247 43 16 184 193 42 235 249 157 31 267

いたあのしみづ
いとおもひけむ
いつかいでけむ
いづくとも
いづくもおなじ
いつとなく
いつなりて
いつのひとまに
いつのまに
いつまでかみし
いづるより
いづれぞと
いでかはる
いでそめて
いでにける
いでぬとみえて
いとぞみだるる
いとなみも
いとほるる
いとふべきよぞ
いとまありて
いなばのやまの
いのちたえなば
いのちたへずは
いのちとなれる

20 145 145 106 37 238 237 232 182 274 174 262 236 76 266 101 164 36 201 113 78 194 59 199 221

いのりこし
いはがきしみづ
いはしみづ
いはほがうへに
いふばかりなる
いほもるしづも
いまさしのほる
いまだしりける
いまはまた
いまはみるらむ
いまやつむらむ
いりあひのかねの
いりかか
いりしほさむき
いりひいろこき
いるさのやまの
いるのすゑの
いろかはる
いろかはるまで
いろしみえねば
いろにみえねど
いろにもえゆく
いろのみや
いろはみえける
いろはみえけれ

146 146 202 102 10 10 162 91 118 160 52 267 245 43 252 245 179 46 242 153 54 108 23 249 94

いろはみせけれ
いろもはかなし
いろをかへたる
いろをのこして
いろをわくらむ
う
うきしづむたま
うきたるみをや
うきふししげき
うきみにかぎる
うきみのかげを
うきみのはてか
うきみもさそへ
うきものと
うきものといふ
うきよなりとは
うきよをあきの
うきよをいとふ
うぐひすに
うぐひすの
うしとみし
うしともききつ
うちそよぎ
うちたえて

166

77 110 213 1 253 214 129 191 13 104 141 133 240 100 145 107 210 99 136 30 220 85 146

うぢのわたりに
うつころもかな
うつしても
うつせみの
うつろひぬ
うつろひまがふ
うつろふいろぞ
うつろふいろを
うつろふにはの
うのはなの
うのはなは
うへにみだれて
うみかけて
うみにふくらむ
うみやまに
うめのはな
うらかぜさむみ
うらぢはるかに
うらのみなどぞ
うらびとの
うらみぬそでも
うらみまで
うらみやはせし
うゑはじめけむ

30

171

7

196 6 203 173 4 268 112 263 231 269 64 256 222 206 45 149 270 138 142 199 230 100 69 143

え
えだかはすらむ
えやはうらむる
お
おいそのもりの
おいのねざめの
おいをむかふる
おきもせず
おくつゆや
おくてのいねを
おくやまの
おくるらむ
おしなべて
おちくるみづの
おちてながるる
おとにても
おとはがは
おなじうきよを
おなじえに
おなじくは
おなじそらにぞ
おなじながれの
おなじまがきの
おなじみなどに

71

93 173 18 236 209 42 234 90 115 72 162 264 273 249 205 260 32 232 82 209 40 184

おのがうゑたる
おのがさつきと
おのがたぐひと
おのがつま
おのがはるとて
おのづから
おのれしぐれて
おのれとむすぶ
おのれのみ
おほかたの
おほかるのべに
おもかげや
おもかげを
おもひありとは
おもひかぬ
おもひきえぬと
おもひきや
おもひしるらむ
おもひしれ
おもひそめけむ
おもひそめけむ
おもひそめける
おもひとく
おもひには
おもひはなさじ

36

211 95 240 30 30 190 37 210 86 207 218 225 247 19 170 3 253 57 74 87 28 16 195 46 176

か
かがみのやまに
かかれるふちの
かきくもり
かきねにさけば
かきねのきくも
かぎりだになし
かぎりなりける
かぎりもしらぬ
かぎりをも
おもひますべき
おもひみし
おもひみだるる
おもひもいれず
おもひもいれぬ
おもひもはれぬ
おもひやる
おもひわびてぞ
おもひをひとに
おもふとも
おもへばみちは
おやをそむける
おりたつたごの
おりはへのこる

11 121 203 21 199 231 29 42 208 26 47 214 121 10 229 197 163 161 161 69 235 37 40

かぎるをも
かくれすむ
かげそへて
かげだにみせよ
かげだにもせず
かけてだに
かげなれば
かげにしのぶる
かげのこしけむ
かげひのみづの
かげよりぞ
かげろふの
かげをだにみむ
かこそあはれと
かざこしの
かさなるけふの
かずかずに
かすことは
かずぞそひぬる
かずならで
がずならぬ
かずはつもらじ
かすみぞかかる
かすみそめつつ
かすみにつきぞ

3 164 25 9 231 153 100 55 51 44 188 30 249 96 34 115 152 45 134 73 45 128 81 105 11

かすみもいくへ
かすむにつけて
かすむよの
かぜとやなれも
かぜにさへ
かぜにまかする
かぜのおとかな
かぜのおとに
かぜのおとは
かぜのおとも
かぜのけしきに
かぜのしらかは
かぜのたよりを
かぜのやどりを
かぜのやどりを
かぜはふくらめ
かぜふきすさむ
かぜふきたちぬ
かぜふきわけぬ
かぜふくごとに
かぜをまつまに
かぜをまつまも
かたしくそでを
かたののみに
かたのゆきに

19 257 120 7 7 137 49 192 111 270 194 56 87 72 148 251 53 241 223 112 217 257 34 159 14

かたみなるらむ
かたもさだめず
かたをかの
かつがつかはる
かづらきのやま
かどでなりけり
かなしかるらむ
かはおとすみて
かはおとたかき
かはかぜを
かはせずしき
かはらぬいろに
かはりやはてむ
かひなしや
かひもなし
かへりみる
かへるかり
かへるかりがね
かへるさどびと
かへるさに
かほよどり
かみちやま
かみなづき
かみやまの
かみよのはなや

かみよのはるや
かやりびも
からことのいそ
かりがねも
かりにのみ
かりのうきよに
かりほのいほに
かるかとぞみる
かれゆくにはの
かをとどむらむ
き
きえてあとなき
きさしににたる
きさてもいとへ
きぎのしづくも
きぎのもみぢば
きくぞうつろふ
きくひとの
きしにとしふる
きしのやなぎの
きのふけふかな
きのふにはにぬ
きみがあたり
きみがよに

18 85 54 29 182 114 69 70 154 142 238 97 240 175 185 166 117 132 119 261 108 225 135

きみのころに
きよみがた
きりぎりすかな
きりたちてけり
きりたつそらに
きりふかき
く
くさならずとも
くさのいほりを
くさのしげみに
くさのとぎしの
くさのはら
くさのゆかりも
くちきのそまに
くもだにもがな
くもちはるかに
くものうへの
くものたよりに
くものただえも
くものはたてを
くもふきはらふ
くもるらむ
くもゐのよそに
くもをばよそに

147 105

5 84 3 241 58 25 223 15 52 193 187 76 185 172 49 65 133 112 151 68 181 258 23

け
けさこそいとど
けさみれば
けしきまで
けぬがうへに
けふぞのばらに
けふだにも
けふのながめは
けふのひも
けふはかなしき
けふばかり
けふはこよひぞ
けふまでも
けふやむかしと
けふりたつ
くるすのをの
くるひともなき
くるよありせば
くるるより
くるるをいかに
くるればひとの
くれにけり
くれぬとて
くれゆくそらも

64

88 70 126 203 73 138 43 32 198 174 78 47 199 212 49 41 51 201 83 241 103 218 261

けぶりにて
けぶりののちの
けぶりをたえぬ

こ

こえつらむ
こぎやいでなむ
こくうすく
こぐふねの
こけむしろ
ここのへの
こころありせば
こころいとも
こころこそ
こころさだめぬ
こころさへ
こころすみてぞ
こころすみても
こころとけたる
こころなき
こころならずは
こころなりせば
こころにふるす
こころのみ
こころもおかず

226 265 269

179 235 20 129 157 225 109 241 66 192 216 189 103 129 80 114 268 205 93 48

こころもとめぬ
こころよるとも
こころをしりて
こころをぞくむ
こしのうみを
こずゑにかかる
ことのはぞなき
こぬひとたのむ
こぬひとに
こぬひとのかに
このさとに
このしたとほき
このはしぐれぬ
このはやもろく
このほどは
このほどや
このまもりくる
このまゆく
こはたのみねに
こはたのみねを
こひしかるらむ
こひしなば
こひそひて
こひとときかずは
こひとときかねば

66

144 144 144 155 228 143 143 50 34 180 205 125 9 57 196 171 67 130 87 193 59 115 221 103 35

こひやなからむ
こふともしらじ
こほりのうへに
こほれるほどや
これのみぞ
ころぞさびしき
ころならば
ころもうつなり
ころもうつなる
ころもがは
ころもでの
ころもでのより
こゑきけば
こゑぞあやしき
こゑたてねども
こゑだにもせず
こゑだにもなし
こゑならで
こゑのかぎりを
こゑもたゆまぬ
こゑをほにあげて

さ

さえくらしつる
さえまさるらん

80 29 183 230 46 27 97 97 17 170 43 260 26 14 197 2 9 75 28 79 228 10 88

さえゆくそらの
さかしらに
さかづきの
さぎさかやまの
さきそむる
さきぬときげば
さくはなや
さくやまぶきの
さくらさく
さくらばな
さけばかつ
さぞくもりなき
さそはるる
さそひきぬらむ
さだめなき
さだめなきみに
さだめなきよか
さつきのそらを
さとつづき
さととほく
さとびとの
さとびとは
さとわかず
さなへとり
さのみこころを

15
・
138
・

39 47 6 174 233 118 107 16 236 177 7 183 194 188 270 186 137 41 136 186 168 63 70 176 2

さのみねぬよの
さびしからぬは
さびしくて
さびしけれ
さへづるはるも
さほひめの
さみだれに
さみだれのころ
さゆるよは
さよちどりかな
さらしなのさと
さらせるぬのぞ
さらにまた
さりとものはな
さるさはの
さをしかの
し
しがのあまの
しかのなくらむ
しかもなくなる
しきつのうらの
しぐるなり
しぐるめり

150
・
170
・

74
・

204
・
248 248 114 8 8 179 160 161 150 170 260 254 37 122 206 251 218 197 48 215 31 167 212 230 230 9

しぐるらむ
しぐれせぬよも
しぐれだに
しげきつゆかな
したのおびの
したへども
しづがいほりの
しづくかは
しづのめが
しづのめも
しなぬくすりの
しのびこし
しのびしころは
しのびてかよふ
しのびてや
しのびはてなで
しのぶにたへぬ
しのぶやま
しばしばかりぞ
しひしばがくれ
しひしばの
しほつをさして
しほやくさとの
しほるかな
しものがれの

217 120 4 263 184 94 226 271 146 94 187 271 6 102 275 252 197 259 225 177 21 173 216 125 22

しもがれはつる
しもがれはてて
しもむすぶ
しらくもの
しらせぬはなを
しらでぞすぎし
しらとりの
しらまゆみ
しらゆきの
しられけり
しられにし
しりにけむ
しりぬらむ
しるければ
しるしもみえず
しるしもみせず
しるべする
しるらめや
しらくなりゆく

49 204 176 132 77 151 56 94 94 24 181 123 60 13 207 160 63 158 194 240 181 219 76

す
すがたのいけの
すぎぬなり
すぎのあをばも
すずしさは

すだくほたるの
すみあらすらむ
すみうかりけむ
すみかふる
すみよしの
すみわびぬ
すむひとからや
すむひとは
すむらんひとの
すゑばより

せ
せきいれぬみづも
せきかぬる
せきとなるらむ
せきのとに
せきのわらやの
せめてははなの

そ
そでしのうらに
そでにかけける
そでになほ
そでぬらすらむ
そではさながら

44 201 86 12 229 193 163 68 243 90 215 33 115 137 178 226 114 13 111 219 51

そでまでも
そでをしきても
そひてはものを
そへてみるらむ
そへむものとは
そまやまかげに
そめなのこしそ
そらにきこゆる
そらにしも
そらにしくなく
そらになくらむ
そらにのこさむ
そらゆくつきも
それともみえぬ

た
たえぬけぶりに
たえぬけぶりや
たえまたえまに
たがいつはりに
たがいつはりを
たがうゑおきし
たがおもかげの
たがたに
たかしのおきも

267 103 208 140 185 35 92 144 144 33 63 50 35 35 191 59 154 113 86 34 235 95 161

たがために
 たがちぎりより
 たがなごりをか
 たかねより
 たきつころは
 たきもすさまぬ
 たぐひある
 たぐひあるみを
 たけのそのふの
 たそかれのそら
 たちかくれてや
 たちそふたみの
 たちそむる
 たちそめて
 たちなれて
 たちぬれてなく
 たちよるひとの
 たちわかれぬる
 たちわたる
 たちわたるらむ
 たつけぶりがな
 たつたやま
 たつちどりかな
 たづぬとも
 たづぬみし

124

275 88 217 262 264 14 80 272 119 259 113 144 24 269 160 198 107 151 133 88 90 72 119 106 259

たどりわび
 たななしをぶね
 たなばたつめに
 たにのいはがき
 たにのしたみづ
 たのまれず
 たのむばかりの
 たのもならぬを
 たびびとの
 たまぎさの
 たまのをもがな
 たまゆゑに
 たゆるものかは
 たよりあらば
 たよりなるらむ
 たよりにさける
 たよりもしらぬ
 たよりをしへよ
 たれしのべとて
 たれにみやこそ
 たれわがやまと
 たれをしむらむ
 ち
 ちかきみかりの

12 79

19 61 245 120 175 45 84 172 180 250 121 274 11 222 175 176 250 92 271 48 55 93 93

ちかければ
 ちぎりおくらむ
 ちぎりけむ
 ちぎりなりけり
 ちぎるらむ
 ちどりなくなり
 ちどりなくらむ
 ちよのひかりも
 ちよもまかせよ
 ちよをひとよに
 ちらぬより
 ちりにけむ
 ちりぬるあとに
 ちりはてにけり
 ちるとみて
 つ
 つきかげに
 つきかげは
 つきぞかかれる
 つきぞさやけき
 つきなれば
 つきにあはれを
 つきにさえたる
 つきにそへてや

266

152 67 34 188 274 81 243 185 40 206 195 255 38 55 23 70 82 263 257 231 135 122 107

つきにちぎりて
つきになぐさむ
つきになくらむ
つきのいろも
つきのかげかな
つきのためとや
つきのみふねを
つきはこのまに
つきはなほ
つきはみえけり
つきまちいづる
つきもひも
つきやどる
つきやみる
つきやみるらむ
つきをあはれと
つきをまつかな
つきをみるかな
つくさずもがな
つくすべき
つくばねの
つげずとも
つたひくる
つにくいの
つまぞとも

178

156

69 219 115 74 264 46 39 18 241 191 161 153 66 236 251 242 221 262 183 64 159 2 141 157 104

つまどふしかの
つまどふよはの
つまむかへぶね
つまをやたのむ
つみにいづらむ
つむきくの
つもれるにはを
つゆおきまよふ
つゆぞうつろふ
つゆながら
つゆながらかせ
つゆにまかせて
つらからで
つらきころの
つれなきいろを
つれなきものは
つれなくも
つれもなき
て
てごとにをりて
てぞめのいと
てにもかからず
てらすべしとは

8

61

123 99 31 38 132 167 127 140 11 98 65 118 149 57 200 207 131 28 8 165 260 259

と
とがへるやまも
ときしらぬ
ときはにしげく
ときはのまつ
ときはのまつの
としつきの
としつきを
としつもの
としのくれかな
としふれど
としへたる
としをのこして
としをへて
とひがほにしも
とひこかし
とひもせで
とひやせむ
とひわかぬ
とひわびぬ
とふのすがごも
とふべきものと
とふほたるかな
とへかしひと
とほざかりゆく

268 250 229 200 120 76 76 67 140 198 82 11 24 208 91 232 71 20 20 10 42 264 169 248

とまらぬはるの
とまるならひも
とまるらむ
とめてもみばや
ともづるのこゑ
ともとてや
とらふすのべも
とりはなくらむ
な
ながきおもひを
ながきちぎりも
ながきよの
なかぞらに
ながつきの
ながつきのそら
なかなかに
ながなくころは
なかなれば
なかはたゆとも
ながめあかで
ながめそめけむ
ながめても
ながめならねば
ながめより

143

70

54 3 156 191 244 128 21 213 79 131 152 243 129 92 157 104 98 183 109 73 208 39 203

なかりけり
なかりけれ
ながれきぬ
ながれてきよき
ながれてのちに
なきてすぐるを
なきはなに
なくうぐひすの
なくかりも
なくさむほどの
なくさめがたき
なくさめも
なくねもいろは
なくねもかはり
なくむしのねに
なくをしは
なげきこる
なげきはあれど
なげくにあまる
なけどもゆきは
なけやさつきの
なごりかは
なごりとして
なさけわくらむ
なぞもかく

96

191

101

237 37 193 32 6 253 146 139 227 228 62 214 150 226 251 87 151 27 39 211 90 23 215 169 49

なだのしほやを
なつごろも
なつしもあらき
なつのつき
なつのやまかけ
なつのよのつき
なとりがは
なにおふよはの
なにしたふらむ
なにぞすむらし
なにはえや
なにはのさとや
なのみきく
なほうきひとの
なほおなじよに
なほこほりしく
なほざりに
なほざりの
なほすみわぶる
なほつまこふる
なほのこりける
なほのこるらむ
なほふかく
なほみだれつつ
なみうつしに

127 132 246 19 244 170 148 106 211 14 158 156 275 219 111 63 194 242 145 220 230 50 223 44 88

に
にしのやまのは
にはのまつかぜ
にはのをぎはら
にほのうきすも
にほはざりせば
にほひとおもはげ
にほひもつきぬ
にほふはるかぜ
ぬ

$$\begin{array}{ccccccccc} & \overset{\cdot}{135} & & & & & & \overset{\cdot}{148} \\ 5 & 235 & 246 & 171 & 79 & 56 & 67 & 52 & & & & 209 & 258 & 37 & 179 & 22 & 228 & 244 & 238 & 192 & 215 & 189 & 125 & 162 \end{array}$$

ぬしさだめたる
ぬれつつなけば
ね
ねくたれがみの
ねざしとどめぬ
ねざめとて
ねざめなればや
ねざめにおもふ
ねざめのそらを
ねなましものを
ねもせぬよはの
ねやあらはるる
ねやもるつきも
ねをとめて
ねをのみぞきく
ねをのみぞなく
の
のきばのうめの
のきばのをぎを
のこるつきかげ
のざはのわかな
のじまがさきを
のなるくさきぞ

273 217 28 195 130 168 272 134 127 197 105 32 171 216 129 62 179 133 254 166 246

のもやまも
 のもりはみるや
 のりにあひなば
 は
 はかなきゆめの
 はかなきよをぞ
 はかなくて
 はかなくも
 はかなしや
 はぎのえに
 はぎのふるえも
 はげしさは
 はしたかの
 はつかりがねぞ
 はつかりなきて
 はつかりの
 はつくさの
 はつしもの
 はつをばな
 はてはまた
 はながたみ
 はなしなれば
 はなすすき
 はなちらす

57 130

192 173 40 168 102 118 131 33 183 176 59 248 116 169 142 234 222 247 239 101 275 65 164

はなならねども
 はなにうつろふ
 はなにさくらむ
 はなのいろの
 はなのしまきの
 はなのしらゆふ
 はなのすがたや
 はなのなごりを
 はなのなもうし
 はなのなをし
 はなのいにて
 はなはさきつつ
 はなまちどほに
 はなもかひなし
 はなゆゑは
 はまながは
 はるあきの
 はるきても
 はるさめに
 はるさめの
 はるにあふらむ
 はるにしられぬ
 はるのあさつゆ
 はるのいろかな
 はるのかりがね

166

224

258 27 33 231 15 180 265 14 220 267 75 131 199 169 252 41 41 198 38 135 256 44 42 189 250

はるのけしきの
 はるのしらゆき
 はるのしらゆふ
 はるのしるしと
 はるのものとや
 はるのわかれぞ
 はるはきぬらむ
 はるはなほ
 はるをへて
 はるをへてみる
 はれくもる
 はれせぬみねの
 はれぬおもひの
 ひ
 ひかずもやへむ
 ひかりそふ
 ひかりなるらむ
 ひかりもつらく
 ひかりより
 ひきののつづら
 ひきもとめなむ
 ひこぼしの
 ひとごとに
 ひとごとの

123

232 232 165 55 103 242 245 188 64 117 151 210 216 31 136 159 164 43 4 253 255 26 24

ひとしれず
ひとしれぬ
ひとすめとてや
ひとぞまたるる
ひとにみせばや
ひとのころの
ひとのころの
ひとのころの
ひとのころの
ひとのちぎりぞ
ひとのつらさも
ひとのみしげき
ひとはとふらむ
ひとはやすらふ
ひとふでみせよ
ひとめならねど
ひともとまらぬ
ひとやしらむ
ひとやはしらぬ
ひとやまつらむ
ひとよだに
ひとりぬる
ひとわすれぐさ
ひばらすぎはら
ひびくらむ
ひまこそなけれ

271 108 91 127 224 120 143 74 207 41 212 89 68 178 227 239 126 248 243 136 91 143 196 20 155

ひらやまおろし
ひろへばきゆる
ふ
ふかきやまちに
ふかきよと
ふかきよの
ふかくなりゆく
ふきかはる
ふきかはるらむ
ふきそめて
ふきなして
ふきはらふ
ふくかぜに
ふくかぜの
ふくかぜは
ふくかぜや
ふちごろも
ふちのいろこき
ふちばかま
ふちはせになる
ふみかよひける
ふゆごもりゆく
ふゆのいけの
ふゆのきぬらむ

175

64

204 228 273 110 126 246 198 1 58 30 17 182 116 5 223 53 148 60 159 68 116 222 256

ふゆのくるとは
ふゆのやまざと
ふゆはいづくに
ふゆやゆくらん
ふりぬるみかな
ふりまさるらむ
ふりまぜて
ふるあられかな
ふるさとの
ふるとはふらぬ
ふるのかみすぎ
ふるのやまだも
ふるゆきの
ふるをなみだに
ふれるしらゆき
へ
へだつるくもの
ほ
ほしやらで
ほどぞつれなき
ほどだにをしき
ほととぎす

6

209 16

210 45

211 46

205

213 141 50 20 117 85 208 166 252 180 253 77 12 222 29 237 167 24 227 226 74

ほととぎすかな
 ほどばかり
 ほどはくもゐの
 ほどはみえつつ
 ほどみえて
 ほどをもまたず
 ま
 まがきには
 まがひこし
 まがへまし
 まきのをやまに
 まくずはふ
 まくらさだめて
 まくらにうとき
 まこもぐさ
 まさきのつなを
 まさりけり
 まさりてすめる
 ますかがみ
 まだきにつゆは
 またたちいでて
 まためぐりきて
 またもえなむ
 またやしのばむ

100

247 265 167 18 147 128 220 150 73 132 181 101 173 81 144 5 41 182 233 110 261 129 214

またれざりせば
 まちえても
 まちけるあきの
 まちなれて
 まづかこちける
 まづかせの
 まづことも
 まづしるきかな
 まつのすみがま
 まつのとほそも
 まつのはくぐる
 まつひとあらば
 まつむしのこゑ
 まつやひさしき
 まつゆふぐれに
 まどふかき
 まれなるひと
 まれにあくなり
 まれにあふ
 まれにだに
 み
 みえずなりぬる
 みえつるゆめの
 みえぬころかな

168 247 206 89 55 186 75 125 211 165 185 98 262 186 264 47 36 106 239 75 233 87 156

みえぬものかは
 みぎはのこほり
 みしはなは
 みしひとの
 みせばやひとに
 みせむとて
 みせもきかせば
 みそぎする
 みそぎをいそぐ
 みぞれもゆきも
 みたらしがはに
 みちぞかはれる
 みちたえて
 みちなりと
 みちなれど
 みちのしるべと
 みちのゆききに
 みづぐきの
 みてこそはなに
 みなせやま
 みなづきのそら
 みにあまる
 みにかふばかり
 みにさむきよは
 みにしみて

58 8 190 229 233 19 270 110 31 164 89 89 212 113 266 29 233 53 67 229 149 238 195 81 225

みにしむあきの
みにしむいろに
みにしめてなく
みにそへて
みねにふくらむ
みねにゐる
みねのさくらに
みねのゆき
みねふかき
みのうさも
みのうさを
みのたぐひこそ
みはしのしもや
みはててよわる
みやぎのの
みやぎののはら
みやぎののほら
みやをしのぶ
みやまにも
みやまのおくに
みやまふく
みゆるはなを
みよのさかりの
みよのさかりは
みるめなき
みわのすぎむら

140 93 269 15 190 273 13 162 22 142 57 11 80 169 146 239 186 81 5 25 106 83 218 17 69

みわのやま
みをうきくさと
みをうちばしの
みをかくさまし
みをしらで
みをしるあめを
みやをかこたむ
む
むかしがたりに
むかしのあきと
むかしのあきを
むかしまで
むかしをぞおもふ
むぐらのやどに
むさしののほら
むさしのや
むすびけり
むすびでもみむ
むすびやそむる
むすぶしらつゆ
むせぶおもひに
むなしけぶりや
むねにしるらむ
むらしぐれ

154 96 155 155 7 71 221 147 265 76 95 111 163 187 187 238 107 86 234 227 92 215 204

め
めかれぬはなの
めぐりあふべき
めぐるならひは
めならぶいろも
めにはみて
も
もえやしぬらむ
もじのせきもり
もとあらのはぎに
ものおもふことの
ものおもふことの
ものおもふことの
ものやかなしき
ものをおもへば
もみぢせし
もみぢとて
もみぢふみわけ
もみぢふりしく
ももえのまつも
ももちどり
もゆるおもひを
もらすべき
もりのこずゑを

やまのはに
やまのはにげよ
やまはふじのね
やまもこだかき
やまよりいづる
ややいりがたに

ゆ
ゆきかへり
ゆきかへるらむ
ゆきなれど
ゆきにかれたる
ゆきにさびしき
ゆきふかき
ゆきまのわかな
ゆきみれば
ゆくすゑの
ゆくつきの
ゆくつきを
ゆくとしなみに
ゆくともみえず
ゆくふねの
ゆくみづに
ゆふぎりに
ゆふぐれに

242
・
251

130 160 133 112 243 83 245 84 92 78 174 143 163 212 77 66 256 244 188 15 78 50 251

[illegible]

よをふるひとの
よをやかこたむ
わ
わがおもひかな
わがかどの
わがくにを
わがこひは
わがみみるらむ
わがため
わがでみるらむ
わかぬころかな
わかぬまで
わかのうらに
わかのうらや
わがままに
わがみとおもふを
わがみながらも
わがみにうとき
わがみにそはぬ
わがみひとつと
わがみひとつに
わがみやかはる
わがみをさらぬ
わがもとゆひや

181 13 126 236 2 96 27 138 237 65 18 272 25 125 4 62 4 99 23 97 84 107 113

わかれにし
わかれはさこそ
わきてぞむすぶ
わきてとぶらむ
わぎもこが
わけざらめやは
わさだかるより
わすられて
わすれざりけり
わすれては
わたつうみの
わたつみや
われだにもとの
われとこなつの
われながら
われにかたらへ
われにもあらぬ
われのみふかき
を
るくひはあれど
るでのたまみづ
るでのやまぶき

196 51 97 95 235 209 158 224 234 121 274 239 216 158 60 98 254 16 224 177 261

をかのしのはら
をぎのはに
をぎのやけはら
をさまれるよは
をしはやま
をしめけむ
をしむとて
をしめども
をとめのそでも
をばななみよる
をみなへし
をりてもゆかむ
をろのながをの

135 17

128 154 170 217 80 203 39 83 255 47 265 200 110